

13年度 予算を可決

賛成討論

日本の景気がさらに失速の気配を強め、桐生市も厳しい財政運営を強いられている状況であるが、市有施設改修事業、北関東自動車道のアクセス道路等、市民福祉に重点をおいたきめ細かい予算編成がなされている。21世紀の市民福祉の向上を実現するために、今日の財政状況を踏まえ、創意工夫を凝らしながらの健全で活力ある予算編成であり、評価できる。

答弁 北関東自動車道へのアクセス道路である中通り大橋線・桐生大橋線の早期完成、群馬大学工学部を中心に設立される（仮称）北関東産学官研究会への支援、そして、環境保全の推進、少子高齢化対策、高度情報化への対応等の施策を重点的に推進していきたい。

平成十三年度予算の重点施策は

「桐生市行財政運営ビジョン」とは

答弁 桐生市行財政運営ビジョンは、桐生市の新たな大綱であり、新公共経営への取り組み、市民との協働によるまちづくり、市民サービスの向上、事務事業の見直し、分権型の人材育成を五つの柱として、五年を目標に改革を進める考えである。

平成13年度一般会計予算及び水道事業会計予算は、それぞれ賛成多数で原案のとおり可決しました。

10事業の特別会計予算については、交通災害共済事業特別会計予算が全員賛成で原案のとおり可決し、その他の9特別会計予算は賛成多数で原案のとおり可決しました。

なお、平成13年度予算を可決するにあたっては、各党派代表の議員（5人）が総括質疑を行うとともに、予算特別委員会（委員13人で構成）を設置し、2日間にわたり、慎重に審査を行いました。総括質疑における、主な質疑に対する市当局の答弁は、次のとおりです。

市税収入の見込みは

答弁 平成十三年度予算における税収は、前年度比で約一億三千六百万円、約一パーセントの増収となっている。これは主として、法人市民税の約一億七千八百万円、約十パーセントの増収が見込まれるためであり、固定資産税、軽自動車税等は前年並みで、個人市民税については若干の減収を見込んでいる。

「北関東産学官研究会」に期待することは

答弁 地場産業振興センターで行っているアドバイスコナーを包括する形で、新たに登録顧問団が設置され、大学の先生や弁護士、

「ファミリーサポートセンター」とは

弁理士等による企業への総合的な支援・協力体制が整備されることにより、北関東地区の産学官連携の推進、地域産業の振興、大学の教育研究の活性化に大きく寄与するものと期待している。

「ファミリーサポートセンター」とは

答弁 育児・介護の支援をしてほしい人と、支援したい人が会員となり、地域で助けあつて、短期的、補助的な育児・介護の支援活動を行なうもので、同センターの主な業務は会員間の育児・介護のあっせんとなる。桐生市では、NPO法人に事業委託し、今年の五月にセンターを設立する予定である。

反対討論

新年度予算の市民アパート建設、おりひめバス上菱線の運行開始等の前進面は評価できるが、多くの課題があるため反対する。介護保険の利用料負担の軽減を行うべきである。特別養護老人ホームの入所待機者の抜本的改善が必要である。国保税の引き上げは低所得者への新たな負担増と滞納増加の要因となる。教育では30人学級を早期に実現すべきである。

請願・陳情の審査結果

この定例会では、請願二十一件、陳情二件の審査を行いました。

その結果、請願一件・陳情一件が次のとおり採択となりました。請願二十件、陳情一件は閉会中の継続審査となりました。なお、議会は、採択となった請願第二十七号に係わる意見書提出を決定しました。（意見書は八ページに掲載）

請願

第二十七号

桐生市農業の持続的発展に関する請願

採択（全員賛成）

陳情

第三号

新桐生桜並木の街路灯設置に関する陳情

採択（全員賛成）